

鉄道ビジネスユニット

環境負荷が少なく大量輸送が可能な鉄道システムの優位性が見直されている今、世界中でビッグプロジェクトが進行しています。そこで、鉄道総合システムインテグレーターである日立は、事業エリアを英国、イタリア、米国、新興国にも拡大。人々の移動を快適にする鉄道トータルソリューションを提供しています。



執行役専務
 鉄道ビジネスユニット CEO
 兼 日立レールヨーロッパ社 取締役会長
アリスティア・ドーマー

■鉄道システムの需要拡大に応える体制を整備

鉄道事業を取り巻く環境は、世界的に見ても大きく変動しています。CO2削減をはじめとする環境問題への対応、都市への人口集中といった動向も踏まえて、多くの国が鉄道事業への投資に積極的です。こうしたニーズに対応するため日立はここ数年、鉄道事業のグローバル化を加速させる成長戦略に取り組んできました。

日本の笠戸事業所（山口県下松市）の生産力を補うため、英国ニュートン・エイクリフに新工場を設立する一方、イタリアでは鉄道車両メーカー・アンサルドブレダを買収して「日立レールイタリア」としたほか、鉄道信号やターンキーなどの事業を行っているアンサルドSTSもグループ会社化したことで、車両と信号・運行管理システムなども含めた大規模なプロジェクトを一括で請負う「ターンキービジネス」を実現可能な環境を整えました。

■日本品質が世界市場でも認められた

この日・英・伊の生産体制に加え、米国マイアミにも新工場を設立したこと

で、生産負荷を平準化し、さらなる案件獲得が可能になったのです。欧州では英国のEU離脱が話題になっていますが、現状では政府の投資計画に変更は見られません。日立レールイタリアがEU内の生産拠点であるため、リスクヘッジにもなると考えています。

世界の鉄道システム市場には“ビッグスリー”と呼ばれる大手3社が存在しますが、日立はグローバル市場で着実に、その牙城に迫る勢いをみせています。特に鉄道発祥の地である英国で日立を受注車両シェアNo.1を獲得できたのは、どの地域よりも高い運行品質が求められる日本で蓄積してきた技術と安全性、快適性、お客さま第一主義による実績が認められたからにはかなりません。

■幅広い価値創造を一括提供できる日立

日立が他の競合ベンダーと比べてユニークなのは、車両や輸送システムだけでなく、ITをはじめとする幅広い事業分野でも強みを持っていることです。これがターン

キービジネスで日立の個性を発揮できる大きな差別化要素となります。例えば、日立が初めからプロジェクトに参画すれば、膨大なデータ分析により、どこに駅を設置すべきか、また路線はどのようなルートがよいか、といったサービスが提供できます。スマートチケットや非接触型決済などの金融サービス、ビルシステムなどと連携し、周辺施設への誘導を創出するソリューションなども一括提供できるでしょう。今後も日立はこうした強みをアピールしながら、日本はもちろん英国を含む欧州や米州、インド、アジアの新興国において、高品質で高付加価値な鉄道サービスを提供するため、さらなる挑戦を続けていきます。



鉄道ビジネスユニットの事業戦略

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 鉄道ビジネスユニット
http://www.hitachi.co.jp/products/infrastructure/product_solution/mobility/